令和５年度

学校評価報告書

目　　次

１．　はじめに（校長）　……　１

２．　建学の精神　……　１

３．　学校教育目標　……　２

４．　今年度重点目標 Plan　評価方法　……　２

５．　具体的な取り組み　……　３

６．　評価結果の分析と考察　……　４

７．　保護者アンケートの結果　……　１２

８．　学校関係者評価　……　１２

四天王寺小学校

はじめに

文部科学省は、学校教育法を平成 19 年 6 月に改正し、第 42 条においては、学校評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めることを規定しました。また第 43 条においては、学校の情報提供に関する規定を新たに設けました。さらに、上記の学校教育法改正を受けて、学校教育法施行規則を平成 19 年 10 月に改正し、現在に至っています。

時代の変化が加速度的に進む中、教員の働き方について検討される一方、社会の要請に応えうる学校教育・学校づくりに向けた議論の中で、学校教育の在り方にも様々な意見が出されています。四天王寺小学校は平成 29 年度の入学生から「変わる！宣言」により、「探究学習」「英語教育」「塾との連携」の三つの柱を軸に教育改革を実施しました。それまでの小中一貫校から 6 ヶ年完結型小学校へと姿を変え、中学受験校としての歩みを続けてまいりました。令和 5 年 3 月には、「変わる！宣言」後初めての卒業生を令和 6 年 3 月には 2 期生を送り出し、卒業生たちは希望する進路へ雄飛してくれました。「特別選抜制度」による併設校（四天王寺中学校及び四天王寺東中学校）へ昨年度を上まわる卒業生が進学しました。

さて、今後予測不可能と言われる社会の変化に対応しうる一人一人に必要な資質・能力を身につけ、学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」）や確かな学力を育成する。将来、社会の人々に寄り添うことができ、社会に貢献しうる人の育成をめざす本校では、教育活動をはじめとする学校運営の状況について評価し、その結果についての説明責任を果たしつつ学校自ら改善を行っています。また、その結果に応じて設置者が必要な支援等を行い、本校における教育水準の向上・保証を目的とした学校評価システムの構築とそのさらなる充実・改善を図っているところであります。また、今年度の評価においては、平成 28 年 4 月に発表した「変わる！宣言」が具現化されていく中で、教職員の意識の高まりが見られ、今まで以上に厳しい目で自らの実践を評価している姿が浮かび上がる内容となっています。

平成 21 年 4 月開校の本校は、平成 22 年度に学校評価検討委員会を設け、学校評価をどのように導入するかについて検討し、平成 22 年度は「自己評価」を実施しました。平成 23 年度より、「自己評価」の内容を精査し、より実態に即した内容で評価項目を設定して実施してきました。また、平成 24 年度より、「学校関係者評価」として後援会実行委員会 3 役（副会長、会計、会計監査）の皆様からの評価（ご意見）もいただいております。さらに平成 26 年度からは、保護者のご意見をこれまで以上に学校運営の改善に反映させるべく、「保護者アンケート」を実施し、より利用者目線に立った客観的かつ厳しい学校評価の実現に努めました。各重点目標における令和 5 年度の得点については、概ね目標（400 点）を越えており、「変わる！宣言」による教育改革が成果として現れていると分析しています。

この学校評価をもとに、今後も児童がより良い教育活動を今以上に享受できるよう、学校運営の改善を図り、本校が益々発展することをめざしてまいります。

令和 6 年 7 月 1 日
四 天 王 寺 小 学 校
校長　花山　吉徳

■　建学の精神

聖徳太子は、推古元年（西暦 593 年）に四天王寺を創建し、敬田院とされました。その設立の精神は、「帰依渇仰　断悪修善　速證無上大菩提處」であり、それは、全ての生きとし生けるものが、仏教に帰依し、深く信じ、悪を断ち、善を修め、速やかに仏の悟りを得て、その境地に達することのできる場所を意味します。また、敬田院と同時に、国家の基礎であり、仏教の重要な教えである慈悲行の実践の場所として、施薬院・療病院・悲田院を設立して四箇院とされました。敬田院で研鑽を積んだ人材が、他の三院の運営に関わり、平和で人々が幸せに暮らせる国づくりに尽力しました。その敬田院の精神を建学の精神として、大正 11 年（西暦 1922 年）に聖徳太子 1300 年御忌記念を機として、学校法人　四天王寺学園は創立されました。

創立以降、聖徳太子のご偉業の中から、三経義疏（勝鬘経義疏・維磨経義疏・法華経義疏）を撰述されたことを受け、特に勝鬘夫人・維磨居士を範とした教育を打ち出し、また聖徳太子が制定された十七条憲法に準拠して学園訓を制定しました。十七条憲法の第一条「和を以って貴しとなす」に象徴される「和の精神」により、道徳観・倫理観を涵養し、勉学・スポーツ等において自己を徹底して磨く教育を実践してきました。社会には時代ごとに国内外を問わずあらゆる課題が存在しますが、その課題解決のために、利他の心を起こし、磨き上げた自己の知識・技能をもって、人々に寄り添える人材を育成することが本学園の使命であります。

学園訓

一、和を以て貴しとなす
一、四恩に報いよ
　四恩とは
　　国の恩
　　父母の恩
　　世間の恩
　　仏の恩なり
一、誠実を旨とせよ
一、礼儀を正しくせよ
一、健康を重んぜよ

■　学校教育目標

聖徳太子の「利他と和」の精神を礎に
志高く豊かな日本のこころを育む

建学の祖である聖徳太子の仏教精神を礎に、「智育」「徳育」「体育」と、古来より私たち日本人が大切にしてきたものの継承に重点をおいた教育に取り組みます。

仏教精神を基盤にした普遍的価値を学ぶ人間教育

・真のエリートをめざした智慧と教養を身につける・・・・・・・智
・自国の伝統や文化を理解し、誇りに思えるようにする・・・・・智
・勤勉、誠実、謙虚な心を大切にする・・・・・・・・・・・・・徳
・正しい振る舞いや正しい礼儀を実践する・・・・・・・・・・・徳
・他者への優しさをもち、親や祖先を大切にする・・・・・・・・徳
・自然に対する畏敬の念をもつ・・・・・・・・・・・・・・・・徳
・たくましい健康な心と体をつくる・・・・・・・・・・・・・・体

宗教教育（礼拝・瞑想・宗教の時間）・教科指導・特別活動・生活指導

体験を通して普遍的価値を知る	教科を通して知恵と教養を学ぶ	活動を通して心身を鍛える
・文化や伝統を学び、継承する	・読み、書き、計算の基礎技能と基礎的な知識を習得する	・基礎体力を身につける
・礼儀作法を学ぶ	・思考力、判断力、表現力を伸ばす	・協同的な行動力を習得する
・情緒を感じる	・探究力を鍛え、人間的感性を高める	・健康や安全に関心をもつ
・武道に親しむ		・規範意識を身につける
総合的な学習の時間	**国語、算数をはじめとする**	**保健体育・給食指導**
特別活動（クラブ活動等）	**各教科・補習**	**特別活動・学校行事**

■　今年度重点目標　Plan

本校の教育活動では、前項に掲げた「建学の精神」、および「学校教育目標」に貫かれている仏教の精神を基盤とした教育は、その運営から実践面に至るまで種々の専門的観点において目標化し、取り組んでいく必要がある。

「利他と和」の精神、すなわち「他者の利益を重んじ、お互い助け合う。」ことの大切さを児童育成の基本理念に掲げ、心の教育を充実させるべく、「Plan１．～９．」の重点目標を設定することとした。

１．学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となった学校運営を行う
２．仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を行う
３．学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める
４．入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集をめざす。
５．健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を高める
６．生活指導：安全教育や集団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する
７．研究研修：教員の資質や授業力を向上させるため、研究・研修を実施する
８．人権教育：人権侵害やいじめの実態を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む
９．進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

■　評価方法

今年度重点目標「Plan１．～　９．」の達成度を検証するために、重点目標ごとに評価項目 Do を設け、以下のような形でアンケートを実施した。なお、今年度、新たに設問を見直した項目がある。

１）実施対象：　　回答教員　実施数（25 名）
２）実施形態：　　自己評価によるアンケート
３）評価項目毎に４段階で評価し、分析と考察を行う
　A（当てはまる）　**B**（やや当てはまる）　**C**（あまり当てはまらない）　**D**（当てはまらない）
４）評価点算出式：５×Ａの％　＋　４×Ｂの％　＋　２×Ｃの％　＋　１×Ｄの％　＝　評価点
　※評価点は、四捨五入して 1/10 の位で表す。
　※無答は、回答者数に含めない。

教員の自己評価に加え、保護者アンケートの実施結果を掲載し、併せて関係者評価として学校関係者評価委員会の方々のご意見をまとめさせていただいた。

■　具体的な取り組み

Plan１	学校運営	「単年度重点目標」を定め、年度当初に研修を行った。全教員で本年度の取り組む重点内容について共通認識が持てた。新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、学校行事や宿泊学習、海外研修をできるだけコロナ禍以前の形で行うとともに、ポストコロナを見据えた形にブラッシュアップさせた。
Plan２	仏教教育	仏教の教えで学んだことを日々の教育活動に活かし、振り返りながら学校生活を送ることができるように意識して取り組んだ。ともいきタイムやともいきの集いをより円滑に進めることができるように、日程の見直し、調整・確定を年度末までに行った。
Plan３	学習指導	次年度の校外活動において、活動内容が多岐にわたること、物価上昇に伴う予納金額の見直し、行事の精査による授業時数の保障などから内容を全面的に見直した。中学入試を意識した学習内容、授業法、教材配列にすべく、受験必須教科（国語科、算数科、理科、社会科）においてカリキュラムの見直しを行う計画を立てた。先駆けて算数科のカリキュラムの見直しを行った。
Plan４	入試広報	新たなイベントである「わくわく探検」を４月に行い、100組を超える参加者を募ることができた。続く６月オープンスクール、７月入試説明会の参加者数も高い水準で推移し、受験者は昨年度比約1.3倍の85名となった。入試広報部員の広報活動、全教員の児童への日々の指導、イベントでの全教職員が一丸となって協働したことなどが結果に結びついた。
Plan５	健康教育	文部科学省や大阪府教育庁私学課の通達に沿って、適宜その時に応じて感染症対策を行った。教室の換気や手洗いうがいの励行は引き続き行っている。マスクの着用については、個人個人適宜着用としている。運動会については、熱中症対策や児童の体力等を考慮し、午前中の実施とした。
Plan６	生活指導	毎週火曜日に副校長、教頭、各学年の教員１名、生活指導部長、安全安心対策室長、放課後学習部長とで「生活指導連絡会」を開催している。教員会議の後に「生活指導報告会」を行って、課題を共通理解し、全教員が同じ対応ができるような体制をつくることができた。
Plan７	研究研修	探究学習の理念や目的、授業スタイルを統一するために研究授業を年間６回実施し、研究を進めた。また、宿泊学習や校外学習での体験学習と事前学習の内容を精査し学習モデルの確立を進めた。さらに、表現力の育成も目指し成果発表の場を積極的に設けた。年度末には探究学習発表会を実施し、学年に応じた表現方法を共有し、さらなる表現力を追及する場とした。 また、教科研修とは別に多岐にわたる研修を実施することができた。
Plan８	人権教育	いじめ等に関するアンケートを年間２回行い、いじめの早期発見やいじめにつながる事象の把握に努めた。児童間でトラブルがあった時には、いじめ防止等対策委員会を開催し、学校全体でその解決を図った。
Plan９	進路指導	進路指導説明会を年間３回（5/13、6/10、2/21）行い、特別選抜制度や入試に向けた心構えや学習法、家庭での支援法などを伝えた。「第２回進路指導説明会」では、卒業生保護者をお招きし、パネルディスカッションを行った。また、私立中学校見学会を８校で実施し、３年以上の児童保護者延べ165家庭が参加した。日能研関西から受けた進路情報をもとに、年間を通して延べ110家庭以上の保護者と進路相談を行った。

■　評価結果の分析と考察

Plan１．学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となった学校運営を行う

（評価の目標点　４００）

No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
1	教育目標の実現に向け、児童の実態を考慮した学習計画や行事の計画を作成する。	40.0	48.0	12.0	0.0	**416.0**	**438.1**
2	小学校の教育理念や教育目標に基づく教育活動を行う。	52.0	44.0	4.0	0.0	**444.0**	**452.4**
3	児童募集に対する意識を高く持ち、入試広報イベントや入試に臨んでいる。	76.0	16.0	8.0	0.0	**460.0**	**461.9**
4	管理職や教職員同士の相互理解や信頼関係に基づいて教育活動を行う。	40.0	48.0	8.0	4.0	**412.0**	**419.0**

Plan１．学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となった学校運営を行う

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
1	TT 授業開始時、学習に困難さを感じる児童が少なからずいる。TT 授業にスムーズに移行できるカリキュラムが求められる。	令和７年度カリキュラムの作成に際し、特別チームを編成し新カリキュラムの検討を行う。カリキュラムを整えることで「A」評価を 50%以上にしたい。
2	全ての教員が四天王寺学園の建学の精神をはじめ、小学校の教育理念や教育目標に基づく教育を展開している。特に学習指導では、宿題自主学習タイムや「たいし教室」（放課後の時間を活用した TT 授業の復習）が定着している。	年度当初に教育理念や単年度重点目標に関する研修を行い、教員の意識の統一を図る。宿題自主学習タイムや
3	全教員が入試や広報イベントに積極的に関わっている。「わくわく探検」イベントでは、それぞれの教員の持ち味をいかしたブースを展開し、より児童募集に対する意識が高まった。	幼稚園や保育園、こども園、幼児教室への訪問活動を積極的に行うとともに、本校の特長をどの教員も充分に伝えられるように研修を行う。
4	目標点は越えているが、決して高い得点とは言えない。学年、分掌の打ち合わせの時間が足らず、意思疎通が図れなかった。また、管理職が教員に積極的に関わっていく必要がある。	教員との面談や授業参観の機会を増やす。各業務をチームで行うとともに、管理職による主担へのヒアリングを密にすることで「A」評価を 50%以上にしたい。

Plan２．仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を行う

（評価の目標点　４００）

No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
5	本校の教育目標に沿ったカリキュラム（仏教教育）を作成する。	42.1	57.9	0.0	0.0	**442.1**	**435.0**
6	仏教校外学習や「仏教の教え」「以和貴タイム」等で学んだことを日々の指導にいかす。	52.4	38.1	9.5	0.0	**433.3**	**447.4**
7	宗教の時間（道徳）の指導時数を確保する。	43.8	43.8	12.4	0.0	**418.8**	**430.0**
8	宗教の時間を始め、教育活動全般を通して仏教精神を生かした指導を行い、望ましい人格形成に成果をあげる。	36.0	52.0	12.0	0.0	**412.0**	**426.3**

Plan２．仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を行う

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
5	「利他と和の精神」に基づいたカリキュラムを作成し、実施した。毎月の生活目標をもとに仏教の教えや以和貴タイムでも触れてもらうとより効果的になる。	仏教の教えや以和貴タイム、ともいきの集いなどで児童にもより分かりやすい言葉で学ぶことができるように実施することで「A」評価を 50%以上にしたい。
6	和宗総本山四天王寺と連携を取り、仏教行事として遂行することができた。ともいきの集いで学んだ合掌瞑想の意味を再確認し、意識して取り組めた。	仏教校外学習は、四天王寺で実際に子どもたちが仏教に直接触れることができる機会なので継続する。より興味関心を持って仏教の教えを学ぶことができるよう指導方法を工夫する。
7	仏教に関する学習は確保できているが、行事や他教科指導の補充のために道徳の時間があまり確保できていない課題がある。	道徳の時間数確保については教務部と協働し、改善策を検討していく。指導時間を確保し、「内容項目」（学習指導要領により定められた指導すべき道徳的価値項目）を遍く指導する時間数を確保することで「A」評価を 50%以上にしたい。
8	意識的に児童の行動を観察し、培われた仏教精神を表出の機会を見逃さず、指導にいかしていく必要がある。	子どもたちの生活と宗教の時間の内容がより関連するように年間指導計画を見直すことで「A」評価を 50%以上にしたい。

Plan３．学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める

（評価の目標点　４００）

No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
9	効果的な教科、領域のカリキュラムを立てる。	45.5	45.5	9.0	0.0	427.3	435.0
10	校時どおりに学習活動を行う。	60.0	40.0	0.0	0.0	460.0	485.0
11	授業を年間指導計画通りに進める。	45.5	50.0	4.5	0.0	436.4	455.0
12	チャイムと同時に授業を開始する。	60.0	32.0	8.0	0.0	444.0	460.0
13	丁寧な発問・質疑応答をする。	68.0	28.0	4.0	0.0	460.0	455.0
14	持たせた副教材はすべて十分に活用する。	50.0	45.5	4.5	0.0	440.9	455.0
15	公平で正しい評価をする。	80.0	20.0	0.0	0.0	480.0	480.0
16	学力不振の児童に対して適切な指導と支援を行う。	60.0	36.0	4.0	0.0	452.0	435.0
17	個に応じた指導を行い、学力の向上をめざす。	68.0	32.0	0.0	0.0	468.0	455.0
18	妥当な年間行事計画を立てる。	40.0	44.0	16.0	0.0	408.0	455.0

Plan３．学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
9	より運用しやすいカリキュラムの構築を検討する必要がある。	令和７年度に向けてカリキュラム編成チームを立ち上げカリキュラムの見直しを図ることで「A」評価を 50%以上にしたい。
10	校時を意識した学習活動が実施できているが、移動教室の授業では、開始が遅れることがあった。昨年度よりポイントが減少しているので、引き続き自他でチェックしていく必要がある。	次年度以降も継続して実施できるよう教員一人ひとりが意識をすることとする。移動教室の場合でもチャイムと同時に授業を開始できるよう休み時間等の過ごし方を指導する。
11	行事や児童の実態等を再検証して、無理なく効率的に学ぶことのできる年間指導計画の検討を行う必要がある。	時数調査や学習進度の確認を継続して行う。また、令和７年度に向けてカリキュラム編成チームでカリキュラムの見直しを図ることとする。
12	概ねチャイムと同時に授業を開始できた。引き続き自他でチェックしていく必要がある。	児童一人ひとりが予鈴を意識できるよう継続した指導を行う。
13	児童の発達段階を意識しながら、主体的な学習活動を促す発言や助言を勧めている。	教員研修を充実させて効果的な指導のあり方を深める。
14	十分に活用することを意識しながら使用していたが、学習定着の差により、一部活用しきれなかった部分があった。	基礎学力の定着を徹底した上で、児童の実態にあわせて、活用していく。また、副教材を活用する時間を組み込んだカリキュラム編成を検討することとする。
15	児童一人ひとりの学習過程を大切に評価し、評価項目に沿った評価ができるように努めている。	今後も適切な評価を行うように努める。
16	教員一人ひとりが様々な場面で個別指導を行う意識が向上しているように思われる。	宿題・自主学習の時間や「たいし教室」（放課後の時間を活用した TT 授業の復習）を活用し、継続して個別指導でのフォローを行う
17	学力の向上を目指すために教員一人ひとりが効果的な指導・支援に最善を尽くしている。	より効果的な指導・支援ができるよう継続して進めることとする。
18	目標点には到達しているが昨年度より大幅に減少した。校外学習や宿泊学習の時期や目的地、活動内容を見直したが、それが定着できていないためと考えられる。妥当な年間行事計画となるよう精査していく必要がある。	他分掌や学園系列校と連携を図りながら、行事の精査は今後も継続して行う。校外学習や宿泊学習をブラッシュアップさせることで「A」評価を 50%以上にしたい。

Plan４．入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集を目ざす

（評価の目標点　４００）

No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
19	効果的な広報計画、広報活動を行う。	52.0	36.0	12.0	0.0	428.0	347.6
20	適切な情報の発信（HP 等）を行う。	44.0	44.0	12.0	0.0	420.0	409.5

Plan４．入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集を目ざす

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
19	入学者数は、昨年度と比較し 29%増加した。入試広報活動が効果的に行えていると言える。	イベント内容・イベントスケジュール等の精査を行い、より効果的な広報活動を行う。
20	ＨＰやインスタでの情報発信を適切に行うことができた。児童のいきいきとした表情が何よりの広報となった。	保護者の若年化や社会情勢からインスタの需要が高まっている。全ての教員がタブレット型端末を持っているので、今後更新頻度はさらに上がると考えられる。どの教員も更新作業をこなすことで「A」評価を 50%以上にしたい。

Plan５．健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を高める

（評価の目標点　４００）

No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
21	健康・安全・保健に関する、児童の発達段階に応じた年間指導計画を作成する。	40.0	56.0	4.0	0.0	432.0	436.8
22	健康診断、健康観察、保健相談等により、健康保持、事故防止を適切に行う。	56.0	40.0	4.0	0.0	448.0	457.9
23	適切な教育相談、カウンセリングを行う。	52.0	44.0	4.0	0.0	444.0	460.0
24	体育行事を計画的かつ適切に実施し、児童の健康保持、体力向上に成果をあげる。	36.0	56.0	8.0	0.0	420.0	426.3
25	給食の食べ方やマナー、栄養指導といった食育指導を適切に行う。	20.0	68.0	8.0	4.0	392.0	405.0

Plan５．健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を高める

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
21	怪我や病気の予防・性教育などが、児童の発達段階に応じた適切な指導計画が実施された。ポストコロナ時代を踏まえた新たな指導内容の検討、実施が求められる。	外部人材を活用した学習の充実と、実施時期を検討することで「A」評価を 50%以上にしたい。
22	事故防止については、最新の注意を払って授業を行っている。また、健康の保持増進に関する指導を計画通り行った。しかし、休み時間の怪我が増加傾向にある。	休み時間の怪我の減少を図るべく、落ち着いて学校生活を行うように、学校全体で取り組む。
23	児童の実態をアセスメント等し、それをもとにカウンセリングの活用を促した結果、サポートの必要な児童への適切な支援・指導が増えている。	カウンセラー、教員、外部専門機関等と連携を図り、「チーム学校」として一層努める。
24	指導の成果として、健康保持に対する意識は高まってきている。また、進んで外で遊ぼうとする児童が増加している。運動会は、熱中症対策、児童の体力等を考慮し、午前中の実施とした。外部施設を利用した水泳学習は児童の体力向上に貢献した。	体育科の授業等で、筋力、柔軟性の体力向上や、健康保持に対する意識の向上を図ることで「A」評価を 50%以上にしたい。
25	感染症予防の食事の仕方は身についてきたが、食事のマナーに関しては課題がある。嫌いな食べ物を粗末に扱う児童がいる事など等の理由から、食前食後の作法の意味を理解させるとともに、栄養指導の充実を図る。	食前食後の作法の意味の理解とともに、発達段階に応じた栄養指導と食育の充実を図る必要がある。また、家庭と連携した食育指導を提案することで「A」評価を 50%以上にしたい。

Plan６．生活指導：安全教育や集団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する

（評価の目標点　４００）

No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
26	正しい掃除の仕方を指導や清掃用具の整備を行い、清潔で美しい学校づくりを行う。	44.0	52.0	4.0	0.0	436.0	428.6
27	安全生活指導（防災訓練）を計画的に実施し、危機管理意識を向上させる。	52.0	44.0	4.0	0.0	444.0	470.0
28	交通安全指導を適切に計画・実施する。	64.0	28.0	4.0	4.0	444.0	470.0
29	学校のきまりや公共のルール、マナーを順守させる。	36.0	48.0	16.0	0.0	404.0	419.0
30	いじめ問題や不適切な問題行動に対して、的確な対応をするために、自ら積極的に研鑽を深め、指導力の向上を行う。	60.0	40.0	0.0	0.0	460.0	447.6
31	縦割り活動を計画的に実施し、異年齢集団の交流を行う。	60.0	36.0	4.0	0.0	452.0	440.0
32	いじめ問題を正しく理解し、適切な指導ができるよう研修を行う	48.0	36.0	16.0	0.0	416.0	420.0

Plan６．生活指導：安全教育や集団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
26	学期ごとに用具の確認、整備を行った。児童の活動である美化委員会も、積極的に活動できた。	学校をきれいにしようとする姿勢を育むため、掃除場所には、必ず教員がついて指導ができるようにすることで「A」評価を 50%以上にしたい。
27	新たに引き渡し訓練や安否確認訓練を実施し、危機管理意識を向上するよう取り組んだ。	より実践的な訓練を取り組む必要がある。
28	低学年、高学年の集団の一斉下校に年間３回マナー指導に取り組み、交通安全や公共のマナーにかかる意識の向上に努めた。	昨年度の取組の成果や課題、登下校の多様な形態をふまえ、より有効的な取り組みを土曜日に実施する。
29	児童朝会等で必要に応じて注意喚起を行った。全体マナー指導を含め、低学年、高学年の集団の一斉下校や年間３回マナー指導に取り組んだ。マナー順守の有効なあり方の検討が必要。	教員一人一人の指導意識を高め、より有効な取り組みを土曜日に実施することで「A」評価を 50%以上にしたい。
30	いじめ関連アンケートを年間２回実施し、いじめ防止に取り組むとともに、必要に応じて「いじめ防止対策委員会」を開催し、組織的な見守りと解決に努めた。	教員研修の場のみならず、日常的に各々の学級児童について交流し、教員全体でいじめ防止に取り組み、研鑽を深める。
31	コロナ禍で、十分な活動は展開できなかったが、徐々に活動の幅を広げていくことはできた。	コロナ前の活動状態に戻すことを目指すことに加え、活動や活動内容について、精選していく必要がある。
32	各種研修を通して、他者を思いやる心の育成に一層取り組める具体的な対処の方法を共通理解した。	「利他と和の精神」について教員が一致した見解を持ち、指導する。また、事例検討や実際の対策を議論するなど、実践レベルで取り組みをより進めていくことで「A」評価を 50%以上にしたい。

Plan７．研究研修：教員の資質や授業力を向上させるため、研究・研修を実施する

（評価の目標点　４００）

No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
33	多様な学力観に対応できるよう研修を行い、授業改善にいかす。	44.0	52.0	4.0	0.0	436.0	435.0
34	初任者研修を計画的に実施し、初任者の指導力向上に役立てる。	12.0	76.0	12.0	0.0	388.0	382.4
35	モジュールタイムの計画と運用を適切に行い、児童の学力向上に役立てる。	70.0	25.0	5.0	0.0	460.0	440.0

Plan７．研究研修：教員の資質や授業力を向上させるため、研究・研修を実施する

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
33	研究授業を年間６回行い、研鑽を積んだ。探究型学習授業スタイルが確立されつつある。	さらに探究型学習についての研鑽を積み、授業研究を継続することで本校の探究型学習授業を確立し、「A」評価を50%以上にしたい。
34	日常的な教科研修に加え、私学の初任者研修に積極的に参加、研修することができた。校内での初任者研修を充実させなければならない。	来年度についても、個別での教科研修を進めながら、私学や公立の研修への積極的な参加を進めることで「A」評価を50%以上にしたい。
35	毎回のモジュールワークの点検によって、ひとりひとりのレベル、強み、弱点を把握することができている。	担任と通常授業担当者とが児童の英語力について共有し、児童全体の英語力向上につなげたい。

Plan８．人権教育：人権侵害やいじめの実態を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む

（評価の目標点　４００）

No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
36	児童の実態に即した人権教育の年間指導計画を作成する。	48.0	48.0	4.0	0.0	440.0	405.3
37	日々の教育活動に人権教育の成果をいかす。	60.0	36.0	4.0	0.0	452.0	442.9
38	児童間で人権侵害事象を起こらないよう取り組む。	72.0	24.0	4.0	0.0	464.0	457.1
39	児童への人権侵害と思える言動を発しない。	80.0	20.0	0.0	0.0	480.0	471.4
40	教職員への人権侵害と思える言動を起こさない。	72.0	24.0	4.0	0.0	464.0	457.1
41	心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるようないじめを認めない。	88.0	12.0	0.0	0.0	488.0	481.0

Plan８．人権教育：人権侵害やいじめの実態を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
36	生きる力の教材を軸に児童の実態に合わせた計画を立案し、実施した。	計画的に宗教の時間に取り組み、人権教育を遂行できた。学習内容については、精査し、人権意識の涵養に努めることで「A」評価を 50%以上にしたい。。
37	日々の教育活動で人権教育は遂行されている。しかし、各担任の倫理観に委ねられていることが課題である。	倫理観の共通理解に努める。
38	いじめアンケートや、日々の見取り等で、人権侵害が起こらないように強く意識して取り組んだ。	教員が連携を取って取り組んでいるが、さらなる情報の共有、理解に努める。
39	教職員全員が、人権意識を強く持ち、日々の指導に当たった。	人権研修を継続して行い、人権意識の向上に努める。
40	人権教育の研修を実施し、教職員が個人個人互いに思いやりにある言動を強く意識している。	継続して、人権研修を行い、常に人権意識の向上に励む。
41	日々の児童の言動に留意し必要に応じてクラス及び学年指導に取り組んだ。指導すべき事象は、直ちに指導するとともに、必要に応じて、いじめ対策防止委員会を開催し、組織的に迅速かつ適切な対応を図り早期解決に務めた。	計画的にアンケートを実施し、結果内容について一層丁寧かつ慎重に精査し課題解決に取り組む。

Plan９．進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

（評価の目標点　４００）

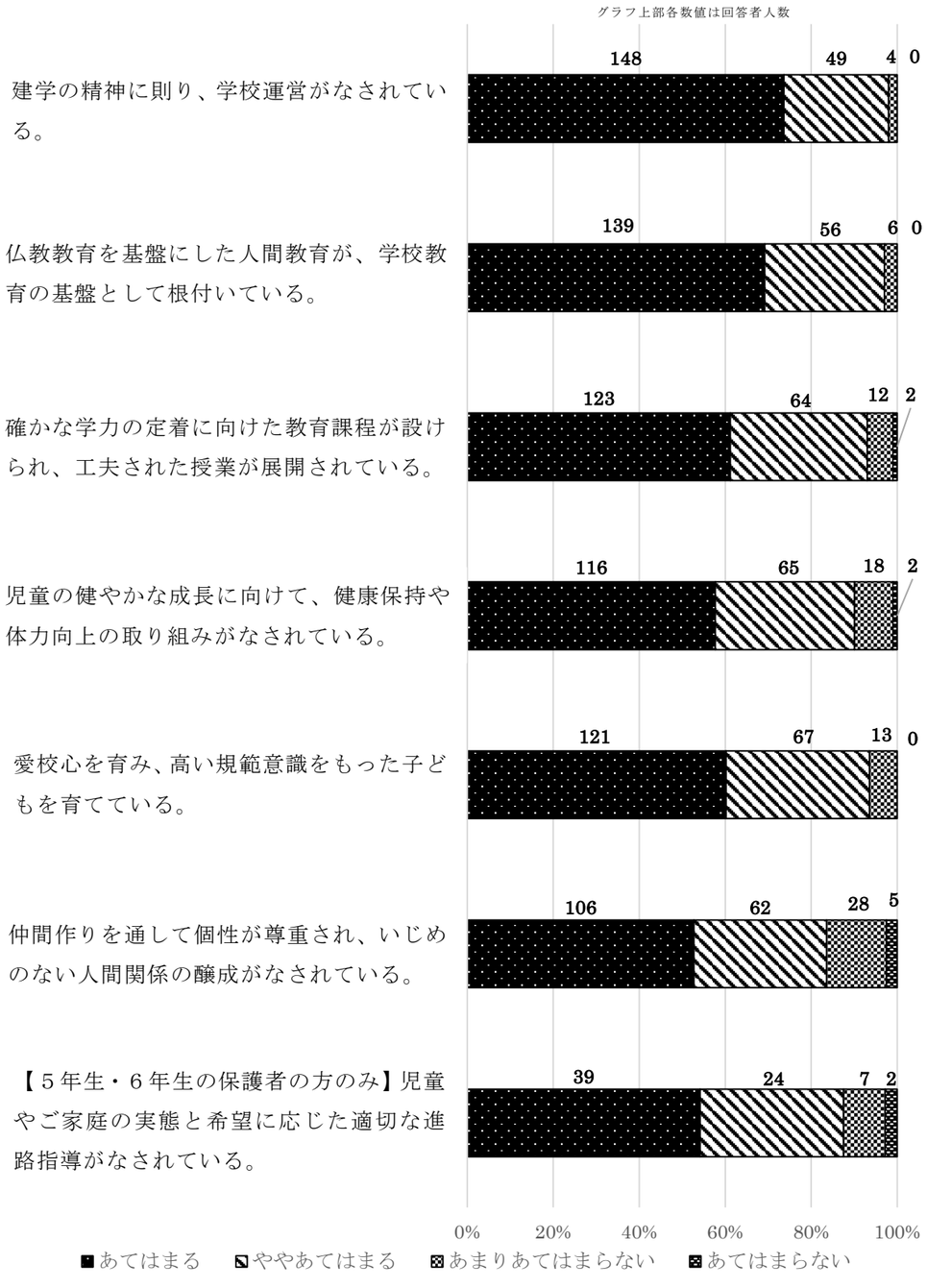
No.	項目【Ｄｏ】	割合（%）				得点	得点
		A	B	C	D	R05	R04
42	進路指導説明会や進路指導コーナー等で、保護者が必要とする進路情報を提供する。	37.5	56.3	6.2	0.0	425.0	410.5
43	希望に沿った進路指導を行う。	28.0	56.0	12.0	4.0	392.0	400.0

Plan９．進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

（評価の目標点　４００）

No.	結果分析【Ｃｈｅｃｋ】	次年度以降の対策【Ａｃｔｉｏｎ】
42	新たに卒業生保護者を招いた進路指導説明会を行い好評を得た。進路指導室や進路指導コーナーでの掲示物やパンフレット等をさらに充実させて情報量を増やす必要がある。	日能研関西や私立中学校とのコミュニケーションをより密にし、種々の情報が得られるように図ったりすることで「A」評価を 50%以上にしたい。
43	昨年度より点数を落とし、目標点に８点至らなかった。高学年担任の持つ進路指導に関する情報量は豊かになっている。どの学年であっても充実した進路指導が行えるようにする必要がある。	進路相談を随時受け付けていることを定期的に発信する。全学年で進路指導を行うという意識を高め、学年の実態に応じた進路指導の在り方について全教員で共有することで「A」評価を 50%以上にしたい。

■　保護者アンケート集計　全校　提出率 65.8%



■　学校関係者評価

後援会実行委員会役員の方々より評価をいただきました。校内における自己評価の集計結果や日常の教育活動についてのご意見をまとめさせていただきました。

１．学校運営・学年運営・学級運営

アフターコロナの中、以前の行事の形態に戻ることで学級・学年・学校全体の人間関係が深まった１年間だったと感じております。学校行事や授業公開など毎月のように多くのことを実施していただき、感謝申しあげます。コロナ禍以前を知らない保護者は、とても新鮮な気持ちで学校行事に参加していたことと思います。満足できる学校生活になりました。

今後も、安全面での管理は徹底いただきたいです。

２．仏教教育

和宗総本山四天王寺への仏教校外学習が毎年実施され、児童は仏教の教えを身近に感じることができています。四天王寺小学校に在籍しているからこそできる貴重な体験であり、仏教を通して心の教育をすることは大変よいことだと思います。

「仏教の教え」では、専門の先生のお話が分かりやすく、日常にいかすことのできる素晴らしい授業だと感じています。

学期ごとの懇談会の際に、学校ブログや SNS では書ききれない少し詳しい内容も聞くことができれば保護者の理解も深まると思います。

３．学習指導・学校行事

様々な行事がコロナ禍以前に戻り、大変活動的でよい１年間だったと思います。校外学習や宿泊学習、たいし子どもまつりなどいろいろと楽しい行事があり、勉強だけでなく心を育むことができたのが良かったです。６月や９月に行った校外学習や宿泊学習は、現在の気候を考慮すると暑くなりすぎる恐れがあるので、避けていただきたいです。

高学年の TT 授業は、学校の友人と取り組むのでやる気が出たようです。また、放課後たいし教室では、分からない問題を教えていただけるので、喜んでいました。宿題を学校で終わらせて帰るので、塾やお稽古事をしていても就寝時間等への影響が少なかったです。

４．入試広報

児童募集イベントが盛んになり入学者数が増えて、今後ますます活気が出てくるのではと楽しみです。入学希望者が増えたのも良い広報のお蔭です。

受験を考えていたら、ホームページやインスタグラムは必ずチェックします。それらが充実しているのがとても良いと感じています。特にインスタグラムには学校行事だけでなく、学校の自

然な様子がリアルタイムに発信されいます。受験生だけでなく、卒業生や保護者が小学校とのつながりを意識づけられるものにもなっています。在校生保護者にとっても子どもたちの様子が分かり、家庭での会話も広がるため、今後も継続いただきたいです。

５．健康教育

運動会は効率よく全学年のプログラムが実施されていて、午前中開催でしたが、充実した内容でした。日曜日の開催も、平日や土曜日の参加が難しい保護者の方も参加できて良かったと思います。

給食は、物価高騰の中であっても、栄養バランスやボリュームを損なうことなく提供してくださり、感謝しています。後援会と教員、給食業者で行ってきた給食会議は、喫食中の子どもたちの様子や栄養士、調理員の方の思いを知ることができ有意義でした。今後もより良い給食にしていくため、連携していきたいです。

外部施設を利用した水泳学習は子どもたちの体力、泳力向上につながり、大変有意義だと思います。

６．生活指導

担任だけでなく、ほとんどの先生が一人一人の名前と顔を覚えて、声をかけてくださる様子を見ると、大変安心できます。

緊急時に備えた引き渡し訓練や安否確認訓練は大切なことだと思いますが、実際に災害が起こった時を想定し、さらに改良する余地はあるように感じました。

公共交通機関を利用しての登下校を行う子どもが大多数ですが、電車で他の乗客に注意を受けたということを度々耳にしました。学校でもマナー指導をしていただいていますが、家庭への啓発等も必要に感じます。

７．人権教育

先生方がよく見ているので、未然にトラブルが防がれています。トラブルがあった際でも、学校全体で共有し、見守ってくださるので安心しています。

いじめに関するアンケートも実施してくださっていますが、その回数や質問内容、回収方法などは改良の余地があるように思います。

８、進路指導

進路指導室の充実や気軽に相談できる環境、特別選抜制度、私立中学校見学会の開催等、とてもありがたいシステムが確立されていると感じています。

6 年生の進路面談は、10 月に行っていますがもう少し早い時期に志望校や受験校の相談ができるとありがたかったです。

卒業生の中には、日能研への通塾とＴＴ授業で特別選抜制度を利用して四天王寺中学校の志望コースに合格した方もいます。秋には、ほぼ進路が決まるので、対策がしやすくて良いと感じました。

令和５年度　　学校評価
令和６年７月１日発行

発行責任者　　学校法人四天王寺学園
四天王寺小学校
校　長　花山　吉徳

監　修　　四天王寺小学校
教　頭　石上　求
編　集　　学校評価検討委員会
委員長　　石上　求
委　員　　山上　佑一朗　　森本　嘉伸
瀬田　真裕美　　竹内　豊一
石井　晃　　福家　尚子
加藤　佑亮　　北口　直樹